

令和2年5月29日
滋賀県社会福祉協議会

コロナ危機下の“暮らし”最前線（緊急小口資金等の特例貸付現状レポート）

特例貸付2か月で、リーマンショック3年間の合計貸付件数を上回る

滋賀県社協は、**経済的に困窮する世帯の子どものサポート事業**を創設します。

新型コロナウイルス感染症の広がりには私たちの経済・社会に大きな打撃を与えています。

そのなかで都道府県社会福祉協議会を実施主体とする「緊急小口資金等の特例貸付」は、相談・申込受付を担う市町社会福祉協議会との協働により、本年3月25日の受付開始以降、暮らしが厳しくなった方々の“駆け込み先”として機能してきました。

コロナの影響は長期に及ぶといわれる中、追い詰められている一人ひとりの暮らしに目を向け、県民だれもが取り残されることなく、この危機を乗り越えられることを願って、現状レポートを取りまとめました。この現状を受け、滋賀県社協では、「ひたすらなるつながり」の理念のもと、目の前で困っている人々、とりわけ**子どもをもつ困窮世帯に着目した事業**を創設します。

→ **コロナショック！滋賀の子どものほほえむ力サポート事業**(最終ページ)

1 貸付決定件数（令和2年5月22日時点）

(1) 貸付決定件数と貸付金額（3/25～5/22）

	貸付決定件数	貸付金額
緊急小口資金	2,665	472,351,000 円
総合支援資金	580	313,546,000 円
計	3,245	785,897,000 円

- ・ 平日1日あたりの申込件数は、概ね緊急小口120件、総合支援30件
- ・ 申込者の年代は、30代～50代の勤労世代が4分の3を占める。
- ・ 職業は、4月は自営業が4割。職種はサービス業が3割で、業種は多岐にわたる。
- ・ 5月以降は、派遣労働者を含む常勤雇用者からの申込も増加傾向。失業ではないが出勤日数が激減という状況が多くみられる。

(比較)

- ・ 平成31年度の年間貸付件数（従来の生活福祉資金）
緊急小口 91件（7,887,000円）、総合支援 5件（1,629,000円）
合計貸付金額 9,516,000円
- ・ リーマンショック時**3年間**の貸付件数（平成21年度～23年度）
緊急小口 1,158件（106,723,000円）、総合 1,269件（1,390,679,000円）
合計貸付金額 1,497,402,000円

(2) 市町別貸付決定件数

市町名	緊急小口資金	総合支援資金	合計件数
大津市	844	238	1,082
彦根市	198	42	240
長浜市	349	154	503
近江八幡市	153	26	179
草津市	206	21	227
守山市	103	26	129
栗東市	91	6	97
甲賀市	154	3	157
野洲市	76	18	94
湖南市	117	9	126
高島市	64	5	69
東近江市	173	16	189
米原市	30	1	31
日野町	35	5	40
竜王町	6	2	8
愛荘町	40	5	45
豊郷町	14	1	15
甲良町	7	0	7
多賀町	5	2	7
合計	2,665	580	3,245

2 事例（借入申込書から）

① 30 歳代女性

飲食業

ひとり親。高校生1、中学生1、小学生1

客足が遠のき売り上げが激減した。当面の生活苦のため借入を申し込みます。

② 40 歳代男性

運送業常勤

妻 製造業パート、小学生1、幼児1

妻がパートに出ているがコロナの影響で臨時休業になり子どもを見てもらえず、仕事に行くことが難しく給料が減ってしまいました。子どもが自宅にいるために食事や生活面で出費が増えたので貸付を希望します。

③ 60 歳代女性

洗い物パート

夫 無職年金

夫と二人暮らし。パートに少し出ているが収入が少なくなりまして少し生活が大変です。お願いいたします。

④ 30 歳代男性

動画クリエイター

単身世帯

フリーランスで仕事を受けていたが案件が減少して収入も減ってしまった。ほかにバイトもそもそもできないので今の状況だと生活がかなり苦しい。

⑤ 60 歳代男性

農業

妻 農業、母 国民年金

台風で農業施設が壊滅的な被害を受け収入が激減。なんとか農業を続けるよう本年もがんばってまいりました。順調に生育し出荷まであとわずかのところへコロナの影響で納入先ストップです。すべて廃棄となりました。何卒農業を続けさせていただきたくお願いいたします。

⑥ 30 歳代男性

広告代理店常勤

母 製造業、妹 無職

母の仕事が止まり、妹の転職とコロナのタイミングが重なり仕事に就けず、私の仕事も4月前半で失われてしまい収入がありません。

⑦ 40 歳代男性

不動産業自営

妻 福祉職、大学生の子1

2月末から営業開始したがキャンセルが多発した。また緊急事態宣言発令に伴い、営業活動も自粛している。

⑧ 30 歳代男性

製造業常勤（派遣）

外国籍 妻 製造業パート、乳児1

残業が減って給料が少なくなりました。生活が苦しい（ローマ字で記入）。

⑨ 40 歳代女性

マンション清掃

ひとり親 高校生1、中学生1

3月より大阪方面の仕事がなくなり、次女の高校入学準備など時期が重なったことと合わせて三女の休校で給食がないことなど、収入増が見込めない中、収入減と支出増があり生活が苦しい。

⑩ 40 歳代女性

飲食業パート

ひとり親 小学生1

小学校が休校し、母子家庭のため働きにできることができなくなった。収入がなく大変困っております。給料手渡しで、明細書ありません。緊急小口と総合支援資金同時に申請します。求職活動も出来る範囲で進めていきます。

⑪ 60 歳代男性

タクシードライバー常勤

妻 パート

コロナの件で収入激減

⑫ 50 歳代男性

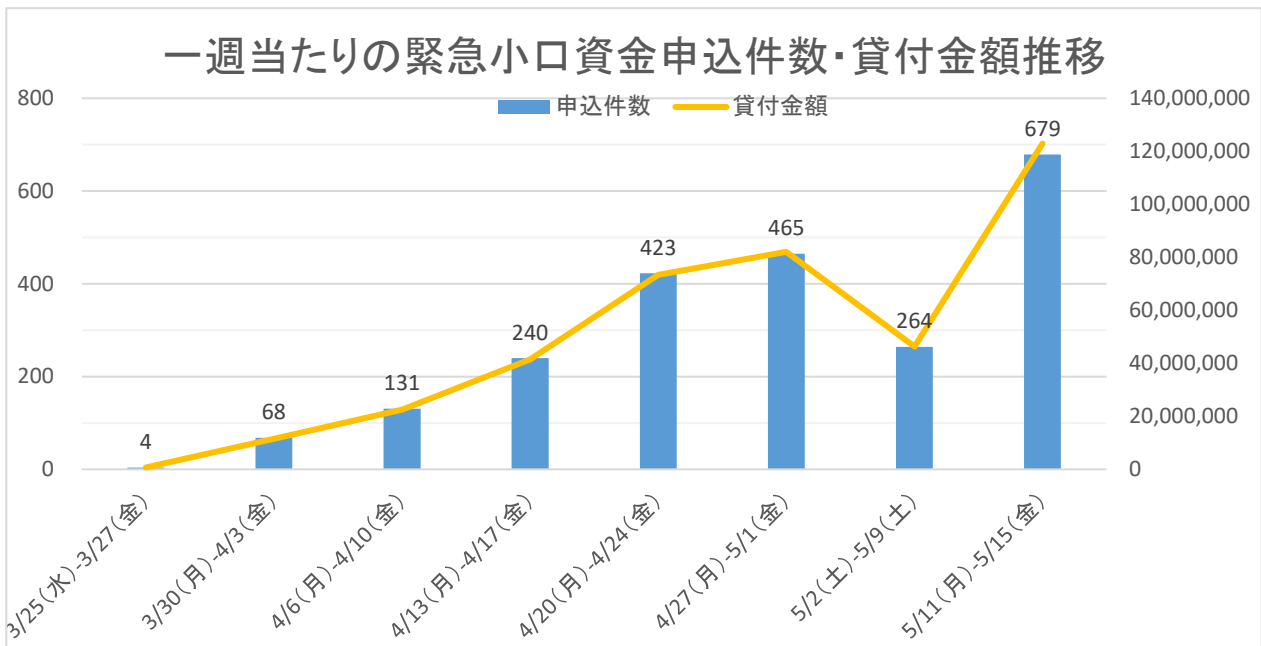
理容業自営

妻 従業員 20 歳代子 会社員

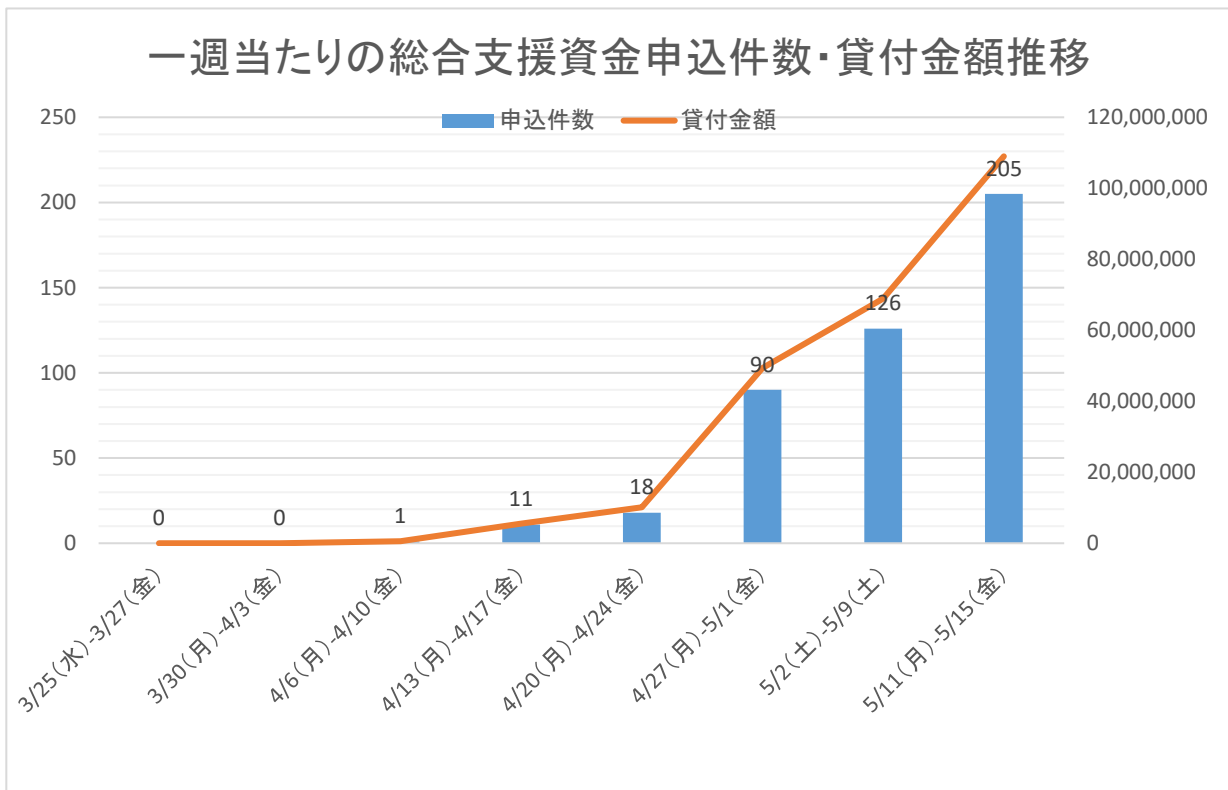
コロナの影響で濃厚接触を避ける傾向が強くなり、非常事態宣言以降来客が減り、収入の減少著しくなった。家賃や家のローンが払えなくなるので借入を希望します。

3 貸付週計および貸付総数推移（令和2年5月15日時点）

① コロナ特例緊急小口資金（合計件数：2,274件、貸付金額：400,921,000円）

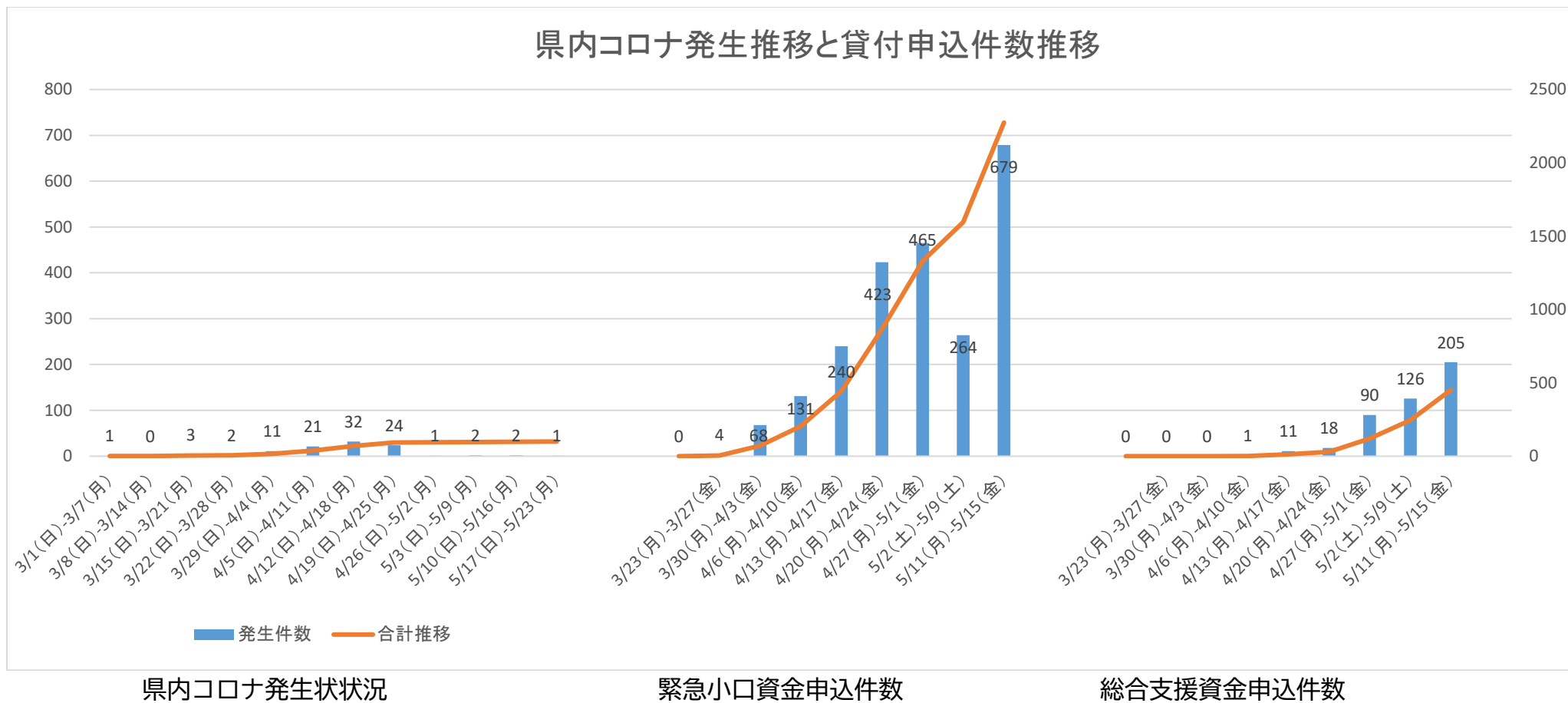


② 総合支援資金（合計件数：451件、貸付金額：243,596,000円）



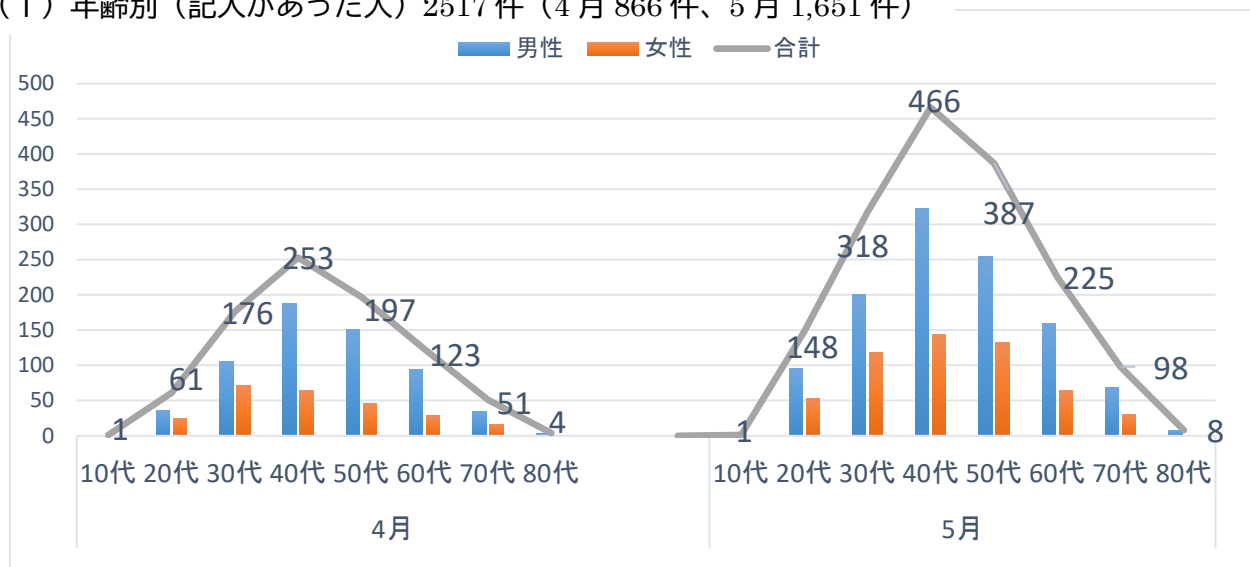
③参考

1) 新型コロナ県内発生推移と貸付相談件数推移

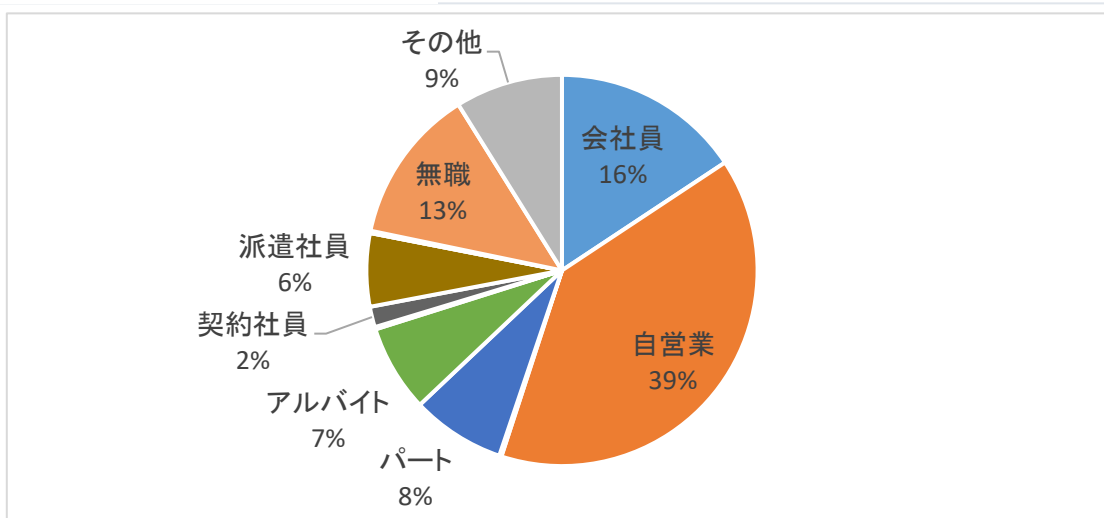


4 貸付者内訳（令和2年4月1日～5月22日）

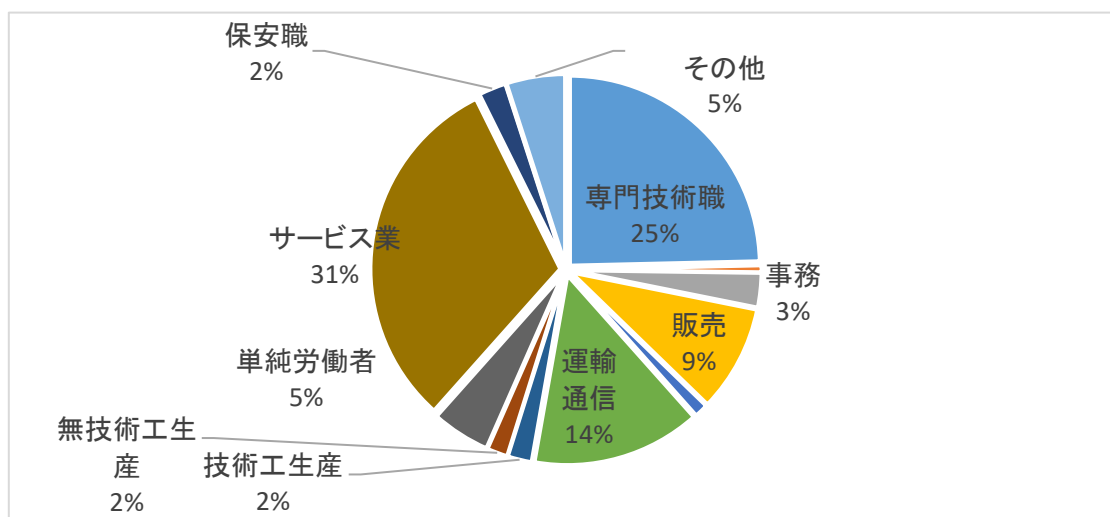
(1) 年齢別（記入があった人）2517件（4月866件、5月1,651件）



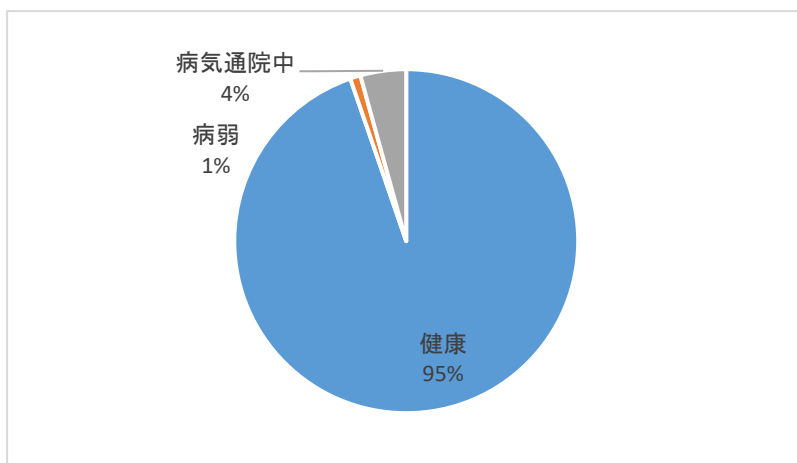
(2) 職業別4月（記入があった人）



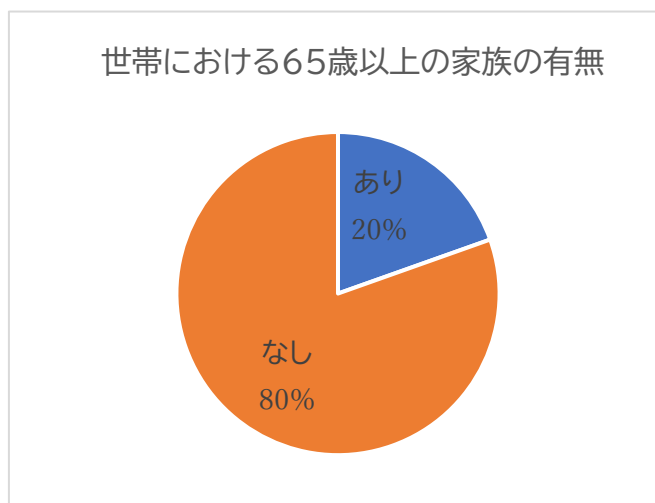
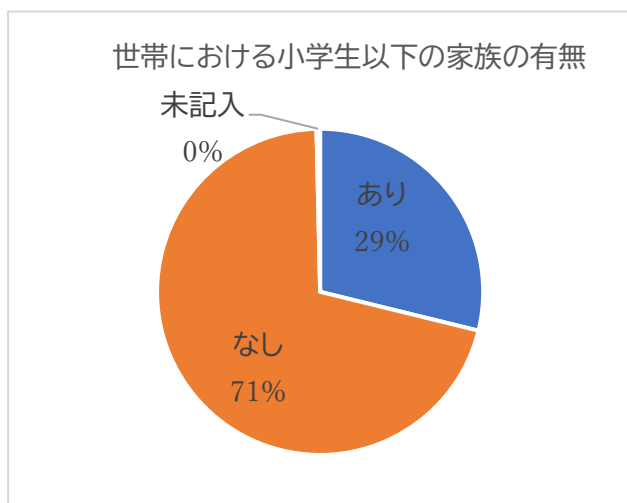
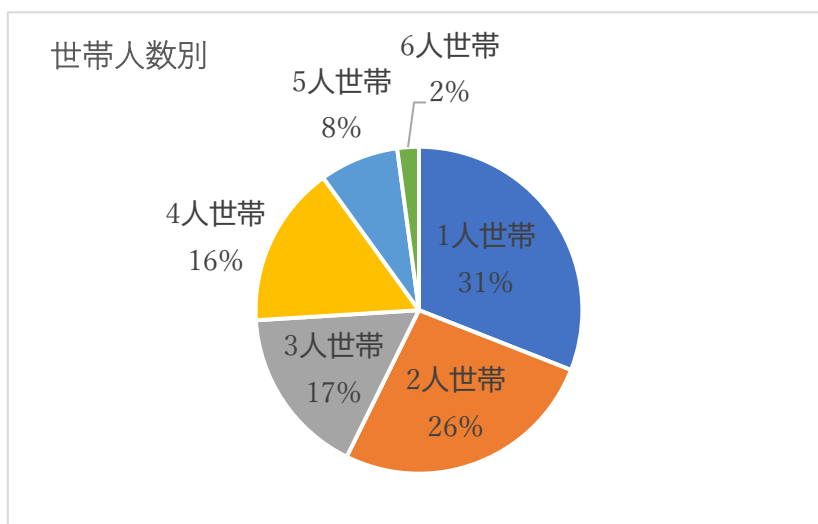
(3) 職種別4月（記入があった人）



(4) 健康状態4月（記入があった人）



(5) 世帯人員別（令和2年4月17日～4月22日受付分）



コロナの影響による困窮のなかで、ほほえむ力をなくしている子どもたちを応援したい！

コロナショック！滋賀の子どもほほえむ力サポート事業

1 趣旨

- ・コロナ特例貸付申込書には、「子どもたちに食べさせるためのお金がありません。助けてください」との切実な声が記されています。
- ・本会は、「ひたすらなるつながり」の理念のもと、だれもが「おめでとう」と誕生を祝福され「ありがとう」と看取られる人間的共感にねざした共生社会実現のため不断の地域福祉実践を行うと定款に決めました。
- ・緊急事態宣言が解除され、日常のにぎわいが少しずつ戻っていったとしても、コロナ不況の影響は、弱い立場にある人たちの生活に深刻にあらわれます。
- ・このため、特例貸付事業を通してつながった目の前で困っている人々、とりわけ経済的な困窮から笑顔をなくしている子どもたちがひとときでも笑顔をとりもどすことができるよう、県民のみなさんの「あたたかいまなざし」の意味を込めて心ばかりのプレゼントを届ける事業を、実施します。

2 内容

- ・特例貸付を利用された世帯のうち中学生以下の子どもがいる世帯に、金券を滋賀県社協よりお贈りします。子どもさんにお菓子や飲み物を買ってあげてくださいというメッセージ付きです。
- ・あわせて、暮らしの困難さをおたずねし、いただいたSOSを行政などへの提案につなげます。
- ・“ほほえむ力サポート事業”は、県民のみなさんからの寄付等による新たな事業です。
- ・困窮世帯の子どもたちへのプレゼントが継続できるよう、140万県民のみなさまに応援を呼びかけたく存じております。名付けて、「140万県民ひとり50円ファンド」です。

3 開始時期 6月上旬を予定しています。